

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・すでに春から夏にかけてのカラーや素材感のトレンドが動き始めているところからみて、3か月後は春物、夏物、初夏物に関しての動きが活発になってくる。
		旅行代理店（従業員）	・国内旅行も早めの申し込み傾向が顕著になり、愛知万博の問合せも増加している。海外旅行は欧州を中心に4月以降の申込みが伸びており、売上の拡大が期待できる。一方、道内宿泊など管内需要は低調であり、全体の底上げは厳しく感じる。
		旅行代理店（従業員）	・中部国際空港のオープンと愛知万博の開催で人の動きがやや活発になることが期待される。
		旅行代理店（従業員）	・電話やカウンターでの旅行相談において、4～8月に出発予定の相談が例年より増えている。内容は海外旅行が多く、また20才台後半の相談が増加している。
		その他レジャー施設（職員）	・プロ野球やJリーグが開幕する。地元プロ野球チーム人気の盛り上がり、話題性等から、昨シーズンよりもチケットの売上増がある程度期待できるほか、来場者や物販売上等の増加も期待できる。
変わらない		百貨店（売場主任）	・小売業の業界では郊外型の量販店への流出が大きく、中心街の百貨店としては前年度の状態から回復するような兆しが見られない。
		百貨店（販売促進担当）	・相変わらず客数の減少が続いている。客の購買意欲もバーゲン時期はおう盛であるが、それ以外は低調であり、今後もその傾向が続く。
		百貨店（役員）	・1月、2月と売上は若干前年を下回っているが、春物の立ち上げ、新ブランドの導入等で集客が期待できる。同時に客の動きも良くみえる。
		スーパー（店長）	・現状の冬物衣料の不振と例年にない降雪のために、春物衣料の出足の遅れが予想され、食料品以外の苦戦が予測される。
		スーパー（企画担当）	・先行きの生活不安に加え、ビール、発泡酒のメーカーサイドの新取引制度が店頭価格の混乱を招いている。消費者の価格に対する信頼性が揺らいでおり、消費が回復する材料が見当たらない。
		コンビニ（エリア担当）	・各市町村の予算も決まり、公共事業に対するお金は更なる減少傾向にあり、工事客等の需要が見込めないため、売上増加は期待できない。世帯の収入も減っていることから、食料品への支出も減ると考えられ、現状以上の回復は見込めない。
		コンビニ（店長）	・特に良くなる材料が見当たらない。客の状況を見る限り、2～3千円とまとめて買う客と、ガム一個やお茶一本だけを買うように買物点数が非常に少ない人と極端に分かれている。買物時の買物点数をもう1～2点というような昔の環境に戻れば明るくなるが、必要以上に物を買わない傾向は続いている。
		家電量販店（経営者）	・黒手帳と言われる炭鉱離職者への就職促進手当が切れ、いよいよ消費者の購買力に陰りが見え隠れしている。クレジットカードによる分割払いも敬遠されがちである。
		家電量販店（店員）	・3～4月は新入学シーズンであるが、下見の客が増えているので、ある程度期待できる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・以前よりはややまとめ買いの傾向がでてきている。景気の底は出たのかなという雰囲気はあるが、2～3か月先の状況は何とも言えない。
		高級レストラン（スタッフ）	・予約状況の悪かった3月は直前になって回復したが、単価が下がっているため、前年並みとなる模様である。4月以降は人数、単価とも前年を割っている状況である。
		観光型ホテル（経営者）	・愛知万博の影響が気になる。地方では盛り上がりが一つとされているが、観光客の動きは読めない。道内客の落ち込みを、インバウンドでカバーするとしても、人数はそこそことみられ、消費単価も横ばいが限度とみている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・シーズンオフの厳しい季節要因もあるが、団体客を中心とした予約が好調であり、前年並みに推移しそうである。

		タクシー運転手	・12月からの降雪シーズンは、雪のない時期よりタクシーの利用が多くなる時期であるが、今年の冬は利用客が冬になっても期待したほど増えていない。特に夜間の利用が少なくなっている。このため、これから雪解け、春を迎える時期になっても、タクシーの利用が増えることが期待できない。
		住宅販売会社（従業員）	・販売量の低迷が続いていることに加えて、購入者の所得の不安定さが変わらない状況なので、現状のまま推移すると感じている。
やや悪くなる		商店街（代表者）	・人口、店舗の郊外への分散が進み、中心街の空洞化は商店街をますます弱体化させる。大手スーパーの系列の百貨店の成り行きによってはより一層客離れが加速する。
		一般小売店〔土産〕（店員）	・今年は中部国際空港の開港や愛知万博等のイベントにより、北海道への観光客がそちらへ流れることが考えられる。来客数および観光客を含めた人の流れに関して、若干北海道観光には弱い要素がある。
		百貨店（売場主任）	・新入学の商品が今一つまだ動いていないため、その後のギフト需要も期待が非常に薄い。
		コンビニ（エリア担当）	・この2か月間、客数は維持しても客単価が下がる傾向が続いている。この様子だと、2～3か月後も変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・地元での雇用がないため、域外に出ていく人が多くなる。地元に残る人達の消費は多少増加するが、トータルで見ると出ていく人の分の消費の減少が多くなる。そのため、景気は今より多少悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・道南エリアの住宅着工数と工事はともに減少するという情報が入っているため、このままでは良くなる要因は見つからない状況である。
		家電量販店（地区統括部長）	・競合店の出店とデジタル商品の単価ダウンが進むため、市況は非常に厳しくなる。
		旅行代理店（従業員）	・4月以降の旅行業法の改正に伴い、消費者保護と権利意識の考えが更に加速するので、客単価の低下と相まって業界全体が上向きことは厳しい状況である。
		タクシー運転手	・市内の小売業の販売高が依然として減少傾向にあることに加えて、昨年は、いかが不漁で水産業もかなりダメージを受けていることから、回復傾向にはない。
悪くなる		高級レストラン（スタッフ）	・新規店舗の開業があり、宿泊客の流出が懸念され利用低下が予想される。
企業動向関連	良くなる	建設業（経営者）	・公共工事の発注が本格的に始まる。民間建築工事についても引き合いが多くなると思われる。ただし、工事量、価格面では厳しい状態が続く。
	やや良くなる	家具製造業（経営者）	・全体としては不透明だが、高級品を求める市場は拡大する。
		輸送業（支店長）	・昨年からの動きだが、道内の建築メーカーは、道外需要に積極的に対応してきた結果、新年度以降の本州物件の受注に成功する会社が多々出てきた。こうした動きが順調に推進すれば、荷動きの面では多少明るい材料になる。
	変わらない	通信業（営業担当）	・客の動きなどから大きく悪くなる印象や予想はないが、道内のIT、情報関連の業界にもこれといった起爆剤を感じられないため、しばらく横ばいが続く。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・主要取扱商品である大型車両や建設機械の販売が苦戦している。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・建設投資に大きな変化はみられない。
	やや悪くなる	金属製品製造業（経営者）	・北海道で景気が向上するような状況がみられない。金属材料が値上がりする中で一過性の対策的な繁忙があっても、前倒しをしているだけなので、この先の停滞、衰退が予想される。
金属製品製造業（統括）		・北海道や市町村の公共工事の発注額が減少するのは確実であり、住宅を含めた民間需要も弱含みである。	
悪くなる			
雇用関連	良くなる		
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・建設業の求人件数が明らかに伸びてきている。また、コールセンターの進出も活発で、短期的に雇用の伸びが期待できる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・企業の来訪以外にも合同企業セミナーや各企業の会社説明会が盛んに行われている。

変わらない	求人情報誌製作会社 (編集者)	・相変わらず地元での常用雇用の数が少ない。本州方面の製造業の派遣請負が多く、地域の雇用改善に至っていない。
	求人情報誌製作会社 (編集者)	・例年であれば、年明けから求人動向が上向き傾向にあるが、今年あまり変動がなく、求人動向が変わらない。昨年 の大手量販店オープンの求人増加に対して今年は落ち着いて いる感がある。
	求人情報誌製作会社 (編集者)	・小売業など個人消費に関わる業種の求人件数はそれほど目 立った伸びがなく、将来の動向が読みづらい状態である。少 なくとも2～3か月後に急激に景気が上昇する可能性は少な い。
やや悪くなる	職業安定所(職員)	・市内において3月末に大手企業の工場が閉鎖され、約180 人が離職予定である。
悪くなる	-	-